

日本学校教育学会 第39回研究大会 (学会創立40周年記念大会) プログラム



日程：2025年7月26日（土）・27日（日）

会場：愛知東邦大学

後援：愛知県教育委員会，名古屋市教育委員会
愛知県私学協会

開催助成：愛知東邦大学

目次

1	研究大会のご案内	4
2	研究大会参加申し込みのご案内	4
3	自由研究発表要領	5
4	お問い合わせ	6
5	愛知東邦大学までのアクセス・会場案内図	7
	課題研究	10
	定期総会	11
	自由研究発表 1	12
	自由研究発表 2	13
	自由研究発表 3	14
	自由研究発表 4	15
	自由研究発表 5	16
	自由研究発表 6	17
	自由研究発表 7	18
	公開シンポジウム	19
	情報交換会	20
	自由研究発表 8	21
	自由研究発表 9	22
	自由研究発表 10	23
	自由研究発表 11	24
	自由研究発表 12	25
	自由研究発表 13	26
	自由研究発表 14	27

ラウンドテーブル 1	28
実践的研究論文・実践記録の必要条件と研究デザイン論文作成しゃべり場 (実践研究委員会)	
ラウンドテーブル 2	30
タイ・スタディツアー, ミニ国際交流シンポジウム, 各委員の活動 (国際交流委員会)	
ラウンドテーブル 3	34
WWL拠点校におけるグローバル人材の育成： 教科横断的探究学習とグローバル教育の融合 (自主企画)	
ラウンドテーブル 4	36
高校探究学習の考え方・進め方 (その 2) ー高校総合学習 (探究) と教科 (探究) の関係を中心としてー (自主企画)	

日本学校教育学会第39回研究大会（学会創立40周年記念大会） の開催にあたって

日本学校教育学会第39回研究大会は、2025年7月26日（土）27日（日）、名古屋市名東区にある愛知東邦大学において開催いたします。学会創設40周年の佳節（節目）となる大会となる本大会に、皆様をお迎えできますことを大変光栄に存じます。

本学会は、学校教育に関する実践と理論の緊密化・統合を目指す学校教育の実践者と研究者によって創立された学会であり、理論と実践の往還・融合を目指した活動を特色として参りました。今大会は、課題研究、定期総会、自由研究発表54件、公開シンポジウム、4つのラウンドテーブルを予定しております。二日間、さまざまな課題について議論が交わされ、より一層研究を深められる機会となりますことを願っております。

今回の研究大会は、1日目、課題研究からスタートし、定期総会、自由研究発表1-7、公開シンポジウム、情報交換会、2日目、自由研究発表8-14、ラウンドテーブルというプログラム構成で実施いたします。

まず、1日目の「課題研究」では、「転換期の学校教育」を共通テーマとした3年間の研究計画の3年目となり、今回は、「転換期の学校と教員養成―教師教育はどう貢献できるのか」と題して研究協議が行われます。次に、定期総会を挟んで、午後からの「自由研究発表1-7」を皮切りに、今回、二日間合計14の分科会を設定しております。各分科会において、皆様による活発な議論と交流が行われることを願っております。さらに、公開シンポジウムでは、「学校教育学のこれまでとこれから―学校教育学のアイデンティティと未来展望―」をテーマとして、コーディネーターと3名のシンポジスト、そして皆様ともに、学校教育学のこれまでとこれからについて、議論していければと考えております。1日目の最後には、会員の皆様の交流の場として「情報交換会」も設けております。是非、日程の最後までご参加いただければ幸いです。

そして、2日目の「自由研究発表8-14」ののち、大会の最後に開催される「ラウンドテーブル」では、4つの企画が設定されています。ラウンドテーブル1では、実践研究委員会による「実践的研究論文・実践記録の必要条件と研究デザイン 論文作成しゃべり場」、ラウンドテーブル2では、国際交流委員会による「タイ・スタディツアー、ミニ国際交流シンポジウム、各委員の活動」、ラウンドテーブル3では、自主企画による「WWL拠点校におけるグローバル人材の育成：教科横断的探究学習とグローバル教育の融合」、ラウンドテーブル4では、自主企画による「高校探究学習の考え方・進め方（その2）―高校総合学習（探究）と教科（探究）の関係を中心として―」と題して議論が行われます。

手狭な会場のため、皆様にはご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、研究大会準備委員会一同、実り多い大会となるよう精一杯準備と運営に務めて参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本学校教育学会第39回研究大会（学会創立40周年記念大会）
大会準備委員会委員長 白井 克尚

1 研究大会のご案内

(1) 大会期日及び会場

【大会期日】 2025年(令和7年) 7月 26日(土) 27日(日) 2日開催

【会場】 愛知東邦大学 (〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘3-11)

【後援】 愛知県教育委員会, 名古屋市教育委員会, 愛知県私学協会

【開催助成】 愛知東邦大学

(2) 大会日程

第1日 2025年7月26日(土) 10:00~20:00 (情報交換会)

時間	9:30~10:00	10:00~11:50	11:50~12:30	12:30~13:30	13:40~15:40	15:50~17:50	18:00~20:00
内容	受付 (名簿確認)	課題研究 (110分)	昼食 (40分)	定期総会 (60分)	自由研究発表 (120分)	公開 シンポジウム (120分)	情報交換会 (120分)

第2日 2025年7月27日(日) 9:00~12:20

時間	8:30~9:00	9:00~11:00	11:10~12:20
内容	受付 (名簿確認)	自由研究発表 (120分)	ラウンド テーブル (70分)

※ 第1日目の18時00分より20時00分まで情報交換会を開催します(帰りは、駅までの送迎バスをご用意します)。なお、情報交換会参加費のチケットは、大会参加費とは別にPeatixより大会当日まで購入することができます。情報交換・交流の場として奮ってご参加ください。

2 研究大会の参加申込みのご案内

(1) 大会参加の申込み

大会への参加を希望される学会の正会員、及び今回の大会のみ参加の臨時会員、院生・学生会員の方は、各自、以下の[チケット販売サイトPeatixより参加費を支払いお申し込みください。](#)

大会で発表する方(口頭発表をしない連名の共同研究者を含む)は、それぞれ正会員である必要があります。未入会の場合は、入会后、参加申込みをしてください。

※ 期限内に入会できるよう、学会事務局に速やかに入会手続きを行ってください。

<付記> 参加申込みと同時に、大会参加費の支払いが行われます。
なお、Peatixの利用にはアカウント登録[無料]が必要です。

(2) 大会参加費

大会参加費は次の様になります。

*正会員・臨時会員	事前申込み	3,000円	※7月16日まで
	直前・当日申込み	4,000円	※7月17日以降～27日まで
*院生・学生会員	事前申込み	1,500円	※7月16日まで
	直前・当日申込み	3,000円	※7月17日以降～27日まで

.....
***情報交換会参加費** 正会員・臨時会員 6,000円 ※7月26日まで
(是非、ご参加を!) 院生・学生会員 3,000円 ※7月26日まで

※情報交換会にご参加いただける方は、Peatixで参加申込みをされる際、「大会参加費」に加えて「情報交換会参加費」チケットをご購入ください。

※なお、情報交換会参加費のチケットは、大会参加費とは別に、Peatixより大会当日まで購入することができます。(ただし、コンビニ支払は前日まで。)是非、ご参加をご検討ください。

(3) 大会参加費の支払い

大会参加の申込みは、大会当日まで可能ですが、「事前申込」と「直前・当日申込」では大会参加費が異なります
事前の大会参加費でお支払いいただけるのは、
7月16日(水)までとなります。

7月17日以降は、「直前・当日申込」の大会参加費となりますのでご注意ください。



【QRコード】

【大会参加申込み：PeatixのURL】

<https://jase39thaichitoho.peatix.com/view>

<付記> 参加申込みと同時に、大会参加費の支払いが行われます。

なお、Peatixの利用にはアカウント登録[無料]が必要です。

※ 昼食について

会場校周辺にコンビニ等がありますが、少し離れている為、弁当を予約いただくか、ご持参ください。

1日目のみ、弁当の予約をご希望の方は、手配の都合上、**Peatixにて7/16(水)までに**チケットの購入をお願いいたします。弁当の値段に Peatix 申し込み手数料1件あたり150円を加えた値段(1,000円)として設定させていただいています。飲み物は各自ご持参ください。キャンパス内には自販機もあります。

3 「自由研究発表」の発表要領

(1) 「自由研究発表」の発表時間について

自由研究発表の口頭発表及び質疑応答の時間は、下記の通りとします。

※発表に使用するPCはご自身でご持参ください。

■個人研究発表(登壇者が1名)・・・発表15分、質疑応答10分

■共同研究発表(登壇者が1名～複数)・・・発表15分、質疑応答10分

※共同研究発表の場合、発表時間内で発表者の分担を行うものとします。

(2) 発表の取止めについて

*万一、お申込みいただいた発表を取りやめる場合は、必ず事前に研究大会準備委員会までご連絡ください。(jase39th2025@gmail.com)

4 「発表要旨集録」について

(1) 「発表要旨集録」のダウンロードのお願い

本大会では、「研究大会プログラム」・「研究要旨集録」について、冊子よる配布はいたしません。参加者ご自身でダウンロードしていただく方式をとります。

※「発表要旨集録」は、7月20日頃を目途に、参加申し込みをされた方に、メールにて指定した URL (Google ドライブ) から電子配信 (PDFファイル) する予定です。

研究大会の当日は、ご自身で必要なページをプリントアウトしてご持参いただくか、URL よりダウンロードしたファイルを情報端末により閲覧できるようにするなどのご準備をお願いいたします。

※ 当日、紙媒体による「研究要旨集録」配布はありませんので、事前のご準備をお願いいたします。

(2) 発表資料の配付について

※ 発表要旨以外の発表資料 (紙媒体) を用意される場合は、当日ご自身で会場にご持参ください。

※ 参加申し込みをされた方に、電子媒体 (PDFファイル) などを事前配付できるよう、7月20日頃を目途に、発表資料置き場を連絡します。(提出は任意です)

※ 発表資料置き場のURL (Googleドライブ) は後日連絡します。

※ 当日までアップロードは可能ですが、参加者に事前にダウンロードしてもらうためには、前日までアップロードされることをお勧めします。

※ 発表資料は、各自の発表区分 (分科会) ごとの発表資料置き場のフォルダに、ご自身で配付するファイルをアップロードしてください。

(3) 大会会場での無線 LAN (eduroam) への接続について

※ eduroam のアカウントをお持ちであれば、大会会場での手続きなしで無線 LAN に接続可能です。eduroam のアカウント取得に関しては、所属機関の担当者にお問い合わせください。念のため、事前に所属機関にて eduroam に接続できることを確認してください。

※ eduroam アカウントを持っていない方には、開催期間中のみ学内で使用可能な臨時のアカウントを発行することができますので、大会 1 週間前、7月20日 (日) までに以下の Google フォームにてお申し出ください。受付にて臨時アカウントを発行します。

<https://forms.gle/Hwjjh23Hr3SerFpW6>



5 お問い合わせ

※ 大会への参加、自由研究発表等に関することについての問い合わせは、大会準備委員会の事務局まで問い合わせください。

【大会準備委員会事務局】

愛知東邦大学 (〒465-8515名古屋市名東区平和が丘3-11)

日本学校教育学会第39回研究大会準備委員会事務局 (委員長: 白井克尚)

E-mailアドレス: jase39th2025@gmail.com

※ 日本学校教育学会への入会や年会費納入の確認等、第39回研究大会以外のことについては、学会事務局までお問い合わせください。Email: JASE.officialmail@gmail.com

愛知東邦大学

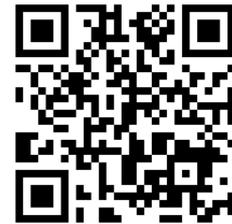
住所:名古屋市名東区平和が丘 3-11
電話:052-782-1241(代表)

愛知東邦大学までのアクセス

ACCESS MAP



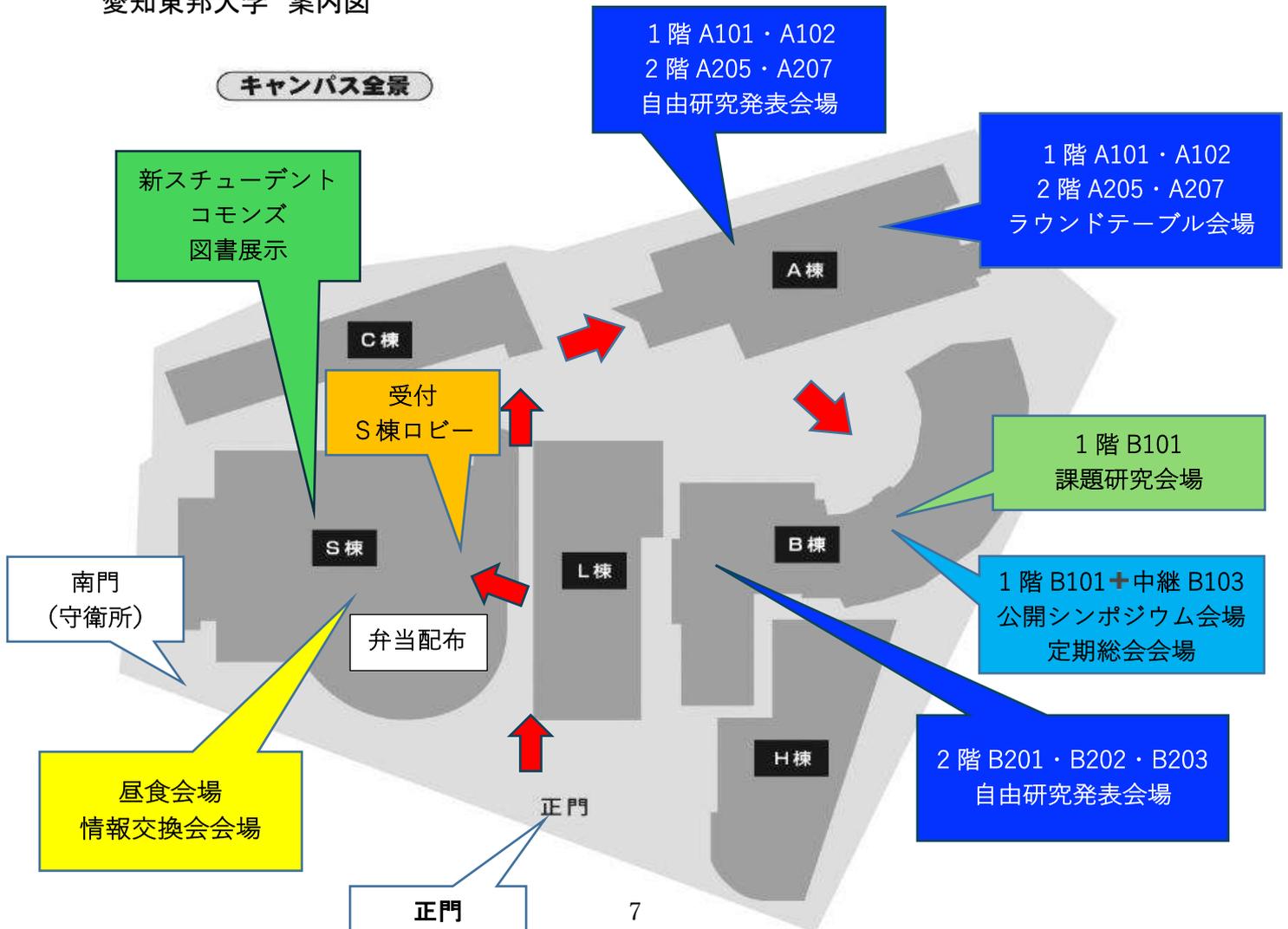
地下鉄東山線「一社駅」より
愛知東邦大学まで
徒歩 約15分



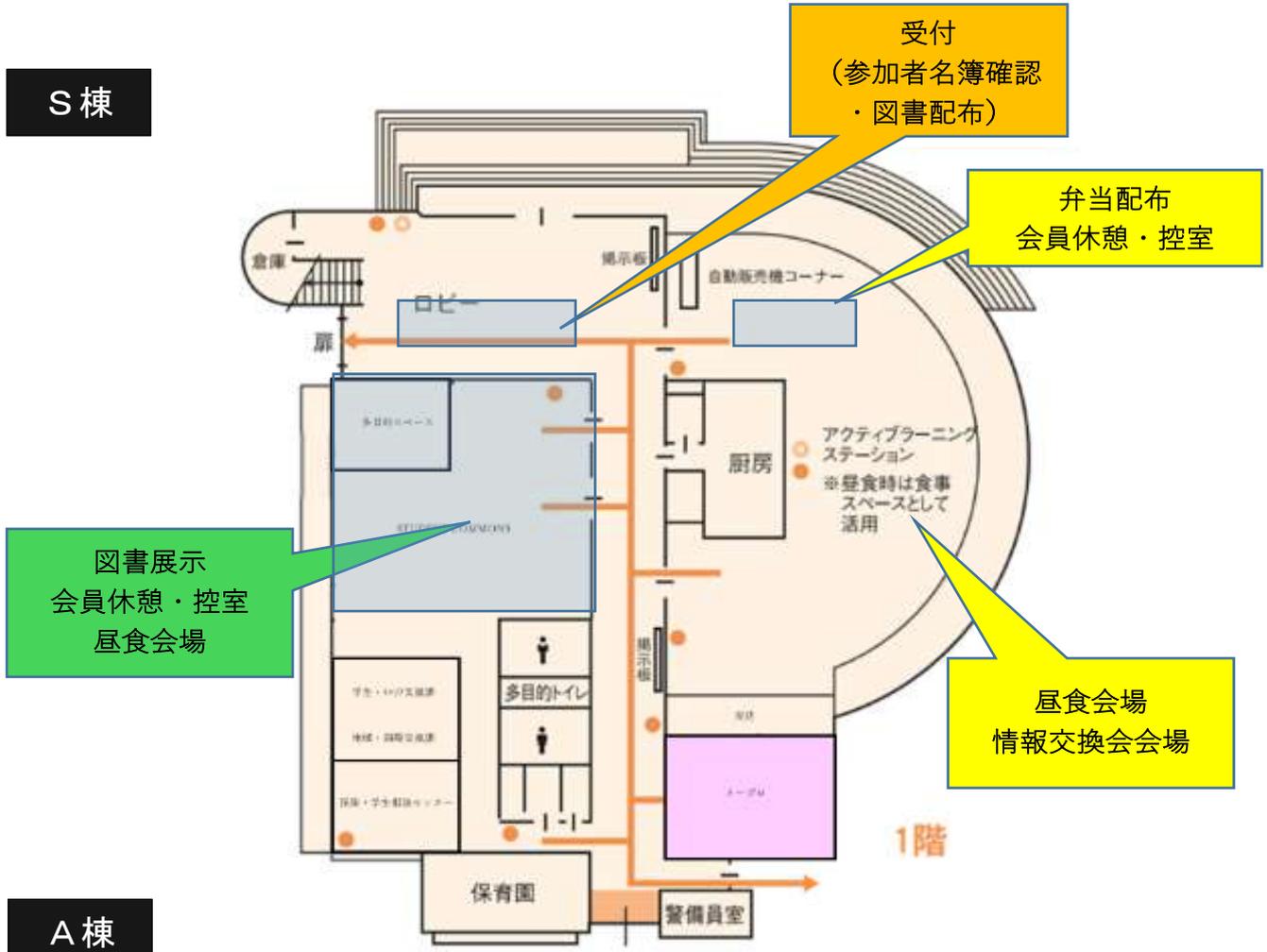
<https://www.aichi-toho.ac.jp/information/access>

会場案内図

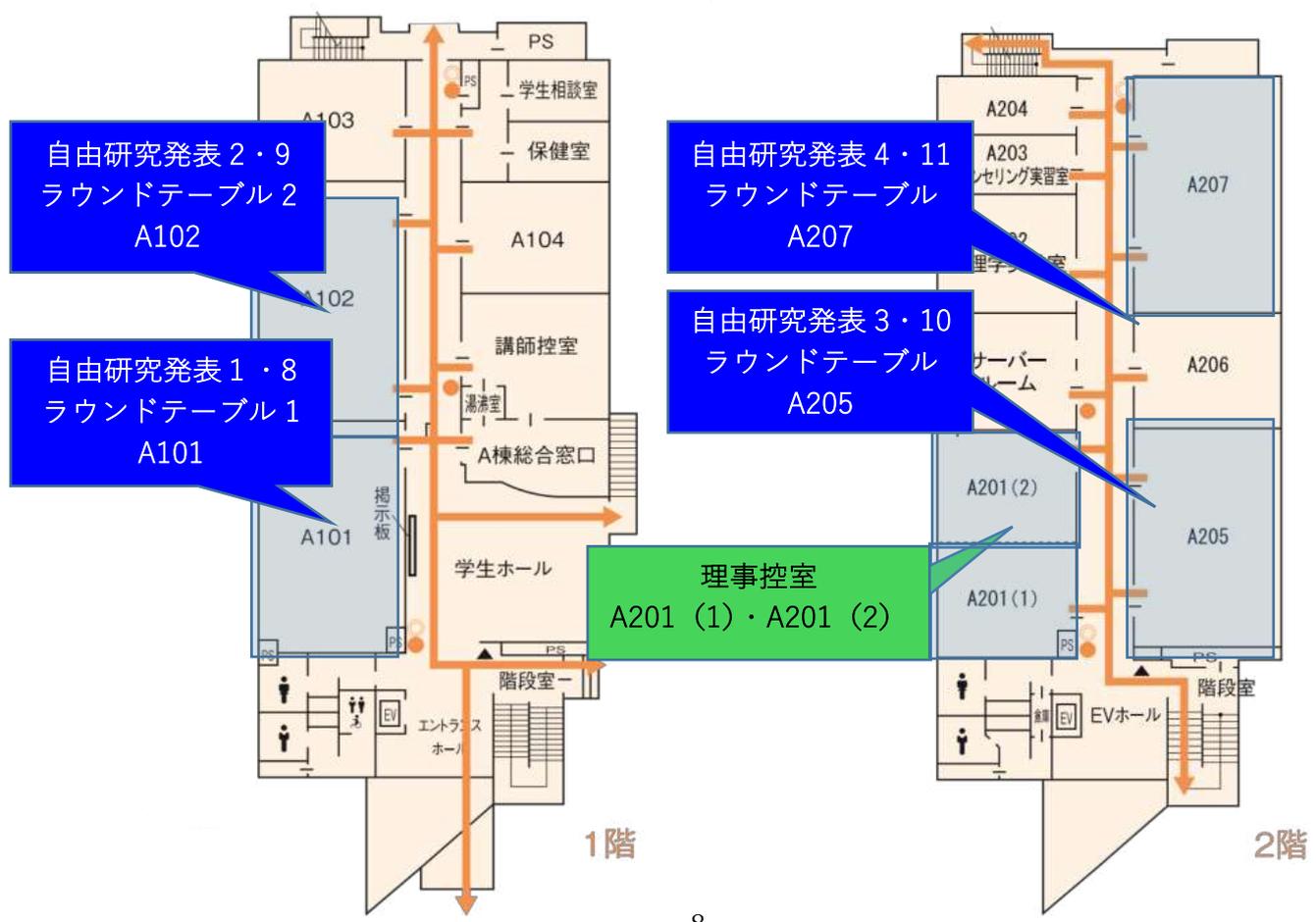
愛知東邦大学 案内図



S 棟

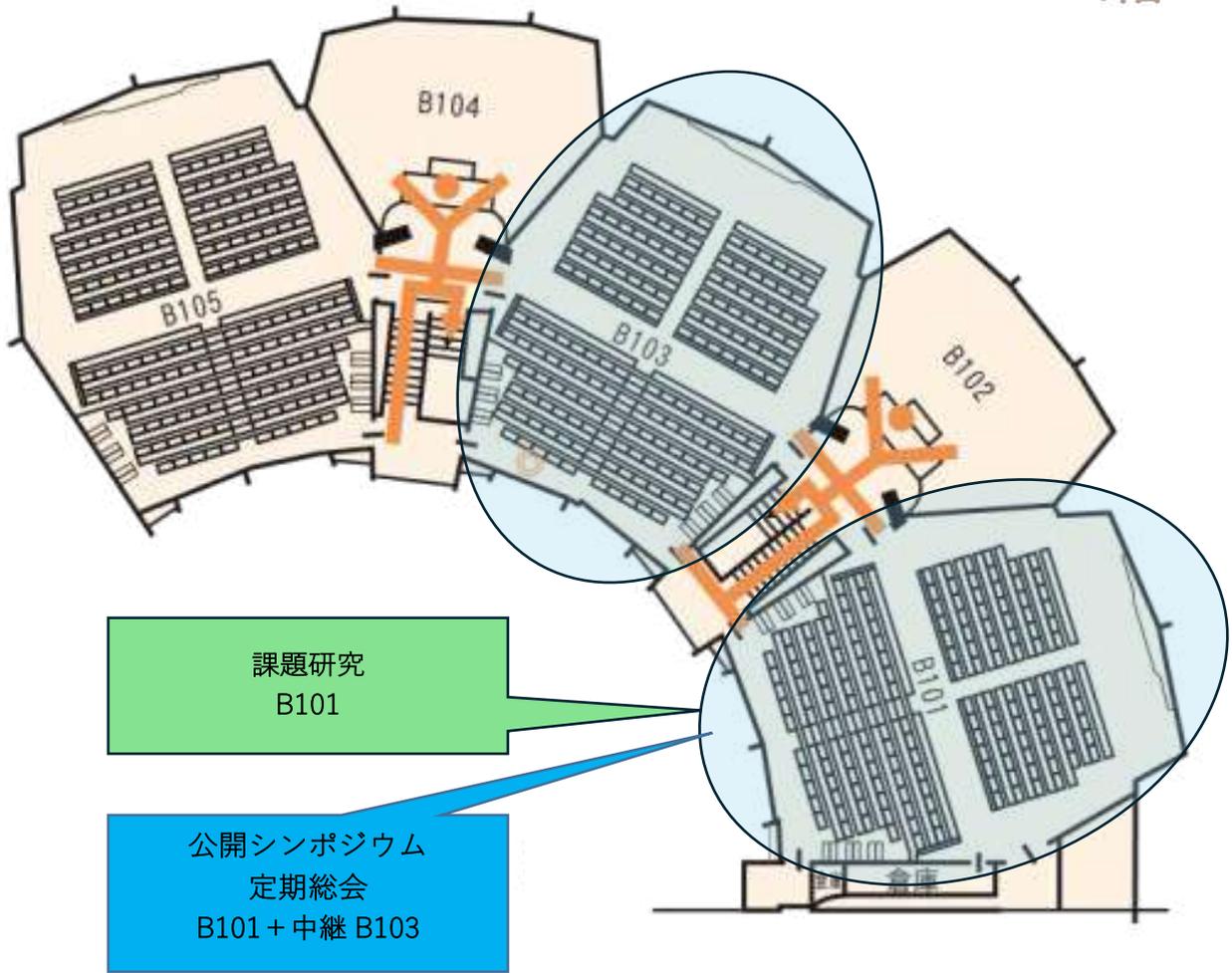


A 棟

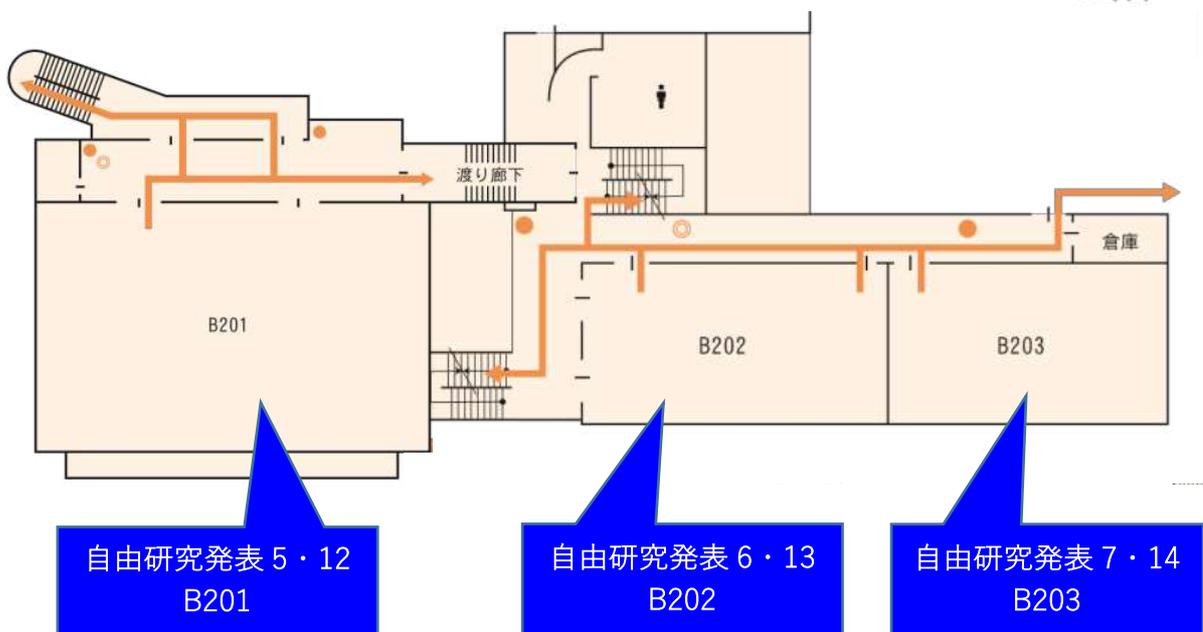


B棟

1階



2階



7月26日（土） 10:00～11:50

【B棟1階 B101】

課題研究

転換期の学校と教員養成-教師教育はどう貢献できるのか

今期、研究推進委員会では「転換期の学校教育」を3年間にわたる共通テーマとして掲げ、課題研究に取り組んでいる。転換期の学校というフレーズそのものは、この四半世紀あまりにわたって用いられてきた。グローバリゼーションとICT（情報通信技術）の飛躍的發展、また昨今では、モノのインターネット（IoT）、人工知能（AI）やロボットの開発、その一方で地球環境の危機的状況、少子高齢化等のもと、社会の産業構造や労働市場、人々の日常生活が大きく変化するなか、学校における教育の内容と方法のあり方は転換が求められてきたのである。

初回にあたる2023年は、「転換期の学校と子ども-学びをどう保障するか」というタイトルのもと、転換期の学校における多様な子どもたちの学びの保障のあり方について、また第2回の2024年は、「転換期の学校と教師-授業の画一化にどう対応するか」というタイトルのもと、教育のスタンダード化等、画一的な教育政策が一段と進むなかでの教師の創造的・自律的教育実践のあり方について、それぞれ検討した。第3回となる本年は、上記タイトルの通り、転換期の学校で教育を担う教員の養成について検討する。

本課題研究では、まず、転換期における教員養成のあり方を探究するにあたって必要となる理論的枠組みとして、これまでの教員養成観の展開と実態、目下提起される知識社会における教員養成観について整理検討する。そのうえで、大学教職課程、教職大学院における教員養成の事例にもとづきながら、大学での教員養成をめぐる現状と今後の展望について検討する。転換期の学校で授業と子どもたちの学びを転換する担い手たりうる教員はどのように育成することができるだろうか。その糸口を探るべく、活発な議論を行いたい。

【登壇者】

木村 優（福井大学）

金井 香里（武蔵大学）

矢嶋 昭雄（東京学芸大学教職大学院）

【司会・進行】

馬場 訓子（岡山大学）

棚野 勝文（岐阜大学）

（研究推進委員会委員長 金井香里）

7月26日(土) 12:30~13:30

【B棟1階 B101】

定期総会

自由研究発表 1

司会 福田 喜彦 (兵庫教育大学)

司会 宇都宮明子 (島根大学)

1) 13:40~14:10

日本の公教育におけるシティズンシップ教育と政治的中立性

吉田 友明 (神奈川県立金沢支援学校)

2) 14:10~14:40

長野県阿智村の社会教育実践に学ぶ

和井田 清司 (武蔵大学)

3) 14:40~15:10

吉田三男の戦後教育実践

—新潟水俣病の授業実践を中心に—

山口 一典 (学習院大学大学院)

4) 15:10~15:40

「校内暴力」時代下における校長の組織マネジメント

小杉 進二 (山口大学)

自由研究発表 2

司会 藤田 武志 (日本女子大学)

司会 大矢 隆二 (國學院大学)

1) 13:40~14:10

教育の省察から共鳴へ：アイディの音の領野の形態論に着目して

神林 哲平 (立正大学)

2) 14:10~14:40

「子供の変容」を引き起こす授業づくり

～「個を生かした生かした協動的な学び」を軸とした単元構想～

松本 恵理子 (山口県美祢市立大嶺中学校)

3) 14:40~15:10

不登校の経験をもつ生徒の過去と現在を考察する

—生徒生活体験発表大会における語りから見えるもの—

本山 修 (長野県松本筑摩高等学校)

4) 15:10~15:40

課題追求型授業で培う体幹で育む体育

—隅内 利之 (隅内教育研究所)—

※ 都合により発表取りやめ

自由研究発表 3

司会 堀井 啓幸 (常葉大学)

司会 黒田 友紀 (日本大学)

1) 13:40~14:10

就学援助制度の転換と学校給食の現代的意義
ー児童生徒の生存権保障の視点からー

栗原 千春 (東京学芸大学)

2) 14:10~14:40

自律的な校内研修を支えるシステムの検討

黒田 友紀 (日本大学)

3) 14:40~15:10

指導主事の職能開発に関する一考察

○浅野あい子 (東京学芸大学)

伊東哲 (東京学芸大学)

4) 15:10~15:40

高校教員のネットワーク形成による「弱い紐帯の強さ」の発揮に関する研究
ー個業化・専門分化が顕著な専門学科を対象としてー

船越 康平 (兵庫教育大学連合大学院)

自由研究発表 4

司会 金井 香里 (武蔵大学)
司会 服部 孝彦 (大妻女子大学)

1) 13:40~14:10

Nurturing Diversity and Inclusion:

The Role of Attitudes and Values in Competency Development

服部 孝彦 (大妻女子大学)

2) 14:10~14:40

学校教育のウェルビーイングをめぐる志向性とその問題

百合田 真樹人 (独立行政法人教職員支援機構)

3) 14:40~15:10

ガート・ビースタの教育思想を通じた市民性教育像の再構築

石原 優 (名古屋大学大学院)

4) 15:10~15:40

~~通信制高等学校においてシティズンシップ育成はかなうのか~~

~~—ビースタの「主体化」概念に注目して—~~

~~—中野—孝太 (京都芸術大学附属高等学校)—~~

※ 都合により発表取りやめ

自由研究発表 5

司会 祐岡 武志 (阪南大学)

司会 中山 博夫 (目白大学)

1) 13:40~14:10

SDGsに対応した教師教育に資する学習スキル開発に関する研究 (最終報告)

○中山 博夫 (目白大学)

多田 孝志 (金沢学院大学)

和井田 清司 (武蔵大学)

石田 好広 (目白大学)

峯村 恒平 (目白大学)

2) 14:10~14:40

韓国における児童生徒人権条例を巡る葛藤

出羽 孝行 (龍谷大学)

3) 14:40~15:10

旧制中学校の教科課程における科目選択制の推移
—生徒の学習権に関する歴史的視点に立った考察—

山崎 保寿 (静岡大学 (名))

4) 15:10~15:40

Accented Englishに対する高校生の言語態度：
SCATを用いた質的分析

島 由佳 (鹿児島高等学校)

自由研究発表 6

司会 佐久間 邦友 (日本大学)

司会 鈴木 久米男 (福島学院大学)

1) 13:40~14:10

学校PFIの事例はどうして増えていかないのか？

富山市の継続的なPFI案件から見えてきた3つの要素(仮)

藤井 祥宏 (東京学芸大学大学院 および 株式会社 Gakken)

2) 14:10~14:40

制度が規定する学校運営協議会の在り方

ーテキストマイニングを用いた協議会規則の分析を通してー

柳瀬 賢佑 (兵庫教育大学連合大学院・明石市立高丘西小学校)

3) 14:40~15:10

A県における保育者を対象としたOff-JT実施の現状と課題

ー県及び抽出市町村、関係団体等による研修の実施状況を踏まえてー

鈴木 久米男 (福島学院大学)

4) 15:10~15:40

学習権保障に向けた自治体教育政策と職員配置

辻村 貴洋 (上越教育大学)

自由研究発表 7

司会 西尾 理 (都留文科大学)

司会 手塚 貴子 (帝京大学)

1) 13:40~14:10

金融リテラシー力を育む高校家庭科の授業実践

手塚 貴子 (帝京大学)

2) 14:10~14:40

高等学校における異文化理解教育

春岡 恵子 (兵庫県立洲本高等学校)

3) 14:40~15:10

学習内容を異学年間でつなぐ単元デザインの開発

—高校生物・代謝单元における漫画作成を行うパフォーマンス課題を事例に—

直井 良太(千代田区立九段中等教育学校)

学会創設 40 周年記念シンポジウム

テーマ

学校教育学のこれまでとこれから —学校教育学のアイデンティティと未来展望—

【趣 旨】

1985年9月15日に創設された本学会の創設趣意書には、以下のことが記されていた。

「理論と実践の結合とは、(略) 社会の構造分析と教育の組織構造・内容・方法分析とを組み合わせ、教育現実をよく『説明』『予知』する新理論の模索・創造を意味するものである。」これには「知」のパラダイム転換が含まれていて、「この課題への挑戦を十分に意識するのでなければ、本学会の存在意義はない」と宣言している。学校内外に生起する教育現実を捕捉・説明するに留まらず、未来の展望と地平を予知し、有用な理論と実践を本学会の日常的な学術活動を通して模索・創造することが、創設趣意書からうかがい知ることのできる本学会の使命と受けとめることができる。

このような使命を有する本学会であるが、わが国において「学校教育学」という専門分野はどれだけ認知されてきただろうか。教育行政学や教育方法学など、他の教育学系のジャンルにない「学校教育学」ならではの特質はどこにあるのだろうか。

学校教育は転換期を迎えている。コロナ期には長期にわたりオンライン授業が行われた。非対面型でも協働的な学びはやれたし、学生たちは、チャット機能を使った学習経験の交流・振り返りを楽しんでいたように映った。リアルな校舎や教室をもたないサイバー学校の普及は夢物語でなくなった。この仮想学習空間では、教師も児童生徒もアバター(仮想人格)で参加するかもしれない。きっと AI による非人格的代替教師も普及するだろう。リアルな校舎、対面的な教え・学ぶという行為、人格的教師の存在がなくても、仮想的に学校は存続していけそうな地平がリアルに拓けてきた。しばらく前から 2045 年問題として、AI が人間の知能を超える技術的転換点=シンギュラリティが指摘されているが、学校教育はどのくらい変貌するのだろうか。何を引き継ぎ残すべきなのだろうか。

本シンポジウムでは、これまでの学校教育学の歩みと痕跡を振り返るとともに、10年後の創設 50 周年への橋渡しとして、創設の趣旨に記された「教育現実をよく『説明』『予知』する新理論の模索・創造」するための、これからの学校教育の未来展望を参加者と共に探索したい。

コーディネーター：原田 信之(中部大学・第12期会長)

シンポジスト：多田 孝志(金沢学院大学・第8期会長)

佐々木 幸寿(東京学芸大学・第10期会長)

安藤 知子(上越教育大学・第11期会長)

7月26日(土) 18:00 ~ 20:00

【S棟1階 食堂】

情報交換会

時 間 18:00 ~ 20:00
会 場 S棟 1階 食堂

<当日まで参加申込で参加可>

- * 7月26日(土) 当日まで、Peatixで「情報交換会」のチケットを購入していただき、参加することが可能です。
「大会参加申込み」と同様のPeatixより、「情報交換会」のチケットをご購入ください。
※当日に「情報交換会」チケットをご購入の場合は、Peatixよりチケットの画面を確認させていただきますので御了承ください。

<「情報交換会」参加費の支払い>

- * 「情報交換会」の申込みは、大会当日まで可能です。
- * 「大会参加費」の支払と同じ Peatixのサイトの「チケットを申し込む」のメニューから
 - ・正会員・臨時会員：情報交換会参加費（大会参加申込に加えて）¥6,000
 - ・院生・学生：情報交換会参加費（大会参加申込に加えて） ¥3,000のいずれかを選択してご購入ください。

※追加の料理や飲み物の準備をしますので、できれば7月16日(水)までに
チケットを購入していただけますようお願いいたします

【大会参加申込み：Peatix の URL】
<https://jase39thaichitoho.peatix.com/view>

【QRコード】



自由研究発表 8

司会 安藤 知子（上越教育大学）

司会 水野 正朗（東海学園大学）

1) 09:00～09:30

教育現場におけるスクールカウンセラーの活用ニーズに関する調査

渡邊 はるか（目白大学）

2) 09:30～10:00

通信制高校を経由するトランジションの構造

—不登校経験者の進路に着目して—

峯村 恒平（目白大学）

3) 10:00～10:30

早期離職教員の教職志望理由と職場環境への認識や就職後のギャップとの関連

○枝元 香菜子（金沢学院大学）

渡邊 はるか（目白大学）

峯村 恒平（目白大学）

藤谷 哲（玉川大学）

4) 10:30～11:00

早期離職教員のソーシャルサポートに対する認識と離職要因との関連

○藤谷 哲（玉川大学）

峯村 恒平（目白大学）

渡邊 はるか（目白大学）

枝元 香菜子（金沢学院大学）

自由研究発表 9

司会 和井田 節子（NPO法人子ども支援プラットフォーム）

司会 平田 幸男（至学館大学）

1) 09:00～09:30

中堅教員のキャリア適応に関する質的研究

－中学校学年主任の語りの分析－

春川 千尋（上越教育大学）

2) 09:30～10:00

若年教員の自律的成長を支える学校OJT-V

～自律と協働を支えブレイドシステム～

柳瀬 啓史（元公立小学校教諭）

3) 10:00～10:30

小中学校校長専門的支援システムの品質保証メカニズム構築

○林 雍智（亜洲大学（台湾））

游 子賢（台湾財団法人高等教育評価センター基金会）

4) 10:30～11:00

教職生活への意識

－正規・非正規の任用形式に着目して

和井田 節子（NPO法人子ども支援プラットフォーム）

自由研究発表 10

司会 香田 健治（関西福祉科学大学）

司会 神永 典郎（白百合女子大学）

1) 09:00～09:30

総合的な探究の時間における問いを深める対話的な介入のあり方に関する研究
－外部支援員の立場から－

○小瀬古 圭慶（三重大学教職大学院 院生）

前原 裕樹（三重大学教職大学院）

2) 09:30～10:00

若手教師にとっての学年単位での「総合的な学習の時間」参画の課題

唐澤 和志（上越教育大学大学院）

3) 10:00～10:30

学校におけるカリキュラム・マネジメントに関する研修の実践的検討

長倉 守（岐阜大学）

4) 10:30～11:00

子ども一人ひとりの思いや願いをかなえる自律的な話合いの効果の検討

－総合的な学習の時間の小単元2を生み出す場面において－

山寄 翔（板橋区立志村第三小学校）

自由研究発表 11

司会 安藤 雅之（常葉大学）

司会 林 尚志（東京学芸大学）

1) 09:00～09:30

学びの自己設計力を育てる自学の実際

－児童の主体性とキャリア形成に着目して－

氏家 拓也（武豊町立緑丘小学校）

2) 09:30～10:00

特別活動をめぐる協働的な省察

－教師の願いと児童の思いのずれに着目して－

○佐藤 雅貴（三重大学教職大学院院生）

前原 裕樹（三重大学教職大学院）

3) 10:00～10:30

リスク評価に基づくコミュニケーションについての一考察

○前澤 佳明（上越教育大学 院生）

4) 10:30～11:00

コンピテンシー志向に基づくこれからの道德教育及び道德科についての一考察

齋藤 道子（目白大学）

自由研究発表 12

司会 蜂須賀洋一（上越教育大学）

司会 佐田東 彰（金沢学院大学）

1) 09:00～09:30

大学生に講義場面において課題を選択させることが質的・量的なパフォーマンスに与える効果の検討

佐田東 彰（金沢学院大学）

2) 09:30～10:00

教職志望学生の強みの自己理解を促すワークショッププログラムの開発と検討

後小路 正人（松本大学）

3) 10:00～10:30

留学生との協働創作をめぐるコミュニケーションの障壁

守内 映子（日本映画大学）

4) 10:30～11:00

学校事故の裁判例を活用した教員養成段階における学校安全の授業構想

蜂須賀 洋一（上越教育大学）

自由研究発表 13

司会 和井田祐司（愛知教育大学）

司会 齋藤 陽子（岐阜女子大学）

1) 09:00～09:30

IB教育と「学校教育」における記号接地問題

岡本 久美子（名古屋市立大学）

2) 09:30～10:00

データ駆動型教育・政策の展開可能性（仮）

○大塚 千尋（東京学芸大学）

山本 雄大（東京学芸大学）

3) 10:00～10:30

教材作成支援ツールとしての生成AIの評価：
スリランカの学習材の事例から

内田 富男（明星大学）

4) 10:30～11:00

小学校国語科における絵本を教材とした単元開発

－「アクティブ・ブック・ダイアログ」と「ブックプレゼン」の実践を通して－

明比 宏樹（立命館大学）

自由研究発表 14

司会 新福 悦郎（石巻専修大学）
司会 田中 謙（日本大学）

1) 09:00～09:30

不登校研究における現象学的な質的研究の可能性
—当事者の経験の探求に向けて

目黒 優衣（名古屋大学大学院）

2) 09:30～10:00

知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントのつながりマップの開発

○北野 原理（静岡大学）

山元 薫（静岡大学）

3) 10:00～10:30

知的障害特別支援学校における学習評価に関する研修の効果

山元 薫（静岡大学）

ラウンドテーブル1

【実践研究委員会ラウンドテーブル】

実践的研究論文・実践記録の必要条件と研究デザイン 論文作成しゃべり場

多田 孝志（金沢学院大学）
中山 博夫（目白大学）
神永 典郎（白百合女子大学）
西尾 理（都留文科大学）
南 美佐江（大阪教育大学附属高等学校）
祐岡 武志（阪南大学）
醍醐 身奈（横浜商科大学）
守内 映子（日本映画大学）
峯村 恒平（目白大学）

特別講師：大村 龍太郎先生（早稲田大学）、森 健司先生（埼玉県深谷市立岡部小学校）

1. はじめに

実践研究委員会では、優れた実践を追い求めてオープン実践研究会（オンライン）を実施してきた。3年間の任期の集大成として『教育の実践と理論の往還を求めて 日本学校教育学会実践研究委員会の学びから』三恵社を出版した。また、毎年の研究大会ではラウンドテーブルを実施してきた。昨年度は、「実践者のための論文の書き方講座」を実施したところ、大変盛況だった。実践的研究論文作成に関する情報を求める会員が大勢存在することを知った。その詳細については、『日本学校教育学会年報』2025 第6号の石森広美論文「論文執筆に対する教育実践者の悩みと必要な支援」に詳しく報告された。石森論文によると、参加された実践者は実践的研究論文執筆への関心が高いのだが、時間が無い、書き方が分からない、コーチングしてくれる方がいないために、論文作成を躊躇している実態が多くあることが示された。実践者会員のニーズに応じ、実践的研究論文を執筆したいという会員のための研究会の実施についても検討したが、実践研究委員会にはそのような余力はなかった。

そこで、学会の愛知東邦大学大会のラウンドテーブルで、今回も実践的研究論文の執筆に関するテーマを取り上げることにした。今回は、学会機関誌『学校教育研究』に優れた実践的研究論文を発表された大村龍太郎先生（早稲田大学）と森健司先生（埼玉県深谷市立岡部小学校）に特別講師としてご参加いただき研究デザインについて語っていただくことにした。そして、参加くださった会員のみならず、特別講師の先生方と委員会メンバーとでグループを作って語り合う論文作成しゃべり場を実施する。実践的研究論文執筆のためのロールモデルを示し、実践的研究論文作成について自由に語り合えるしゃべり場を設定すれば、参加者のニーズに少しではあるかもしれないが応えることができると考えたからである。

2. プログラム

- ① 委員会代表者あいさつ（委員長：中山博夫）
- ② 実践的研究・実践記録の必須条件（委員長：中山博夫）
- ③ 実践的研究の研究デザイン（特別講師）
 - ・ 大村 龍太郎先生（早稲田大学）
 - ・ 森 健司先生（埼玉県深谷市立岡部小学校）
- ④ 論文作成しゃべり場（グループ別）
 - A グループ：大村龍太郎先生、守内映子、西尾理（実践的研究論文）
 - B グループ：森健司先生、醍醐身奈、峯村恒平（実践的研究論文）
 - C グループ：中山博夫、神永典郎（実践記録）
 - D グループ：多田孝志、南美佐江、祐岡武志（総合相談）
- ⑤ 委員会代表者総括（副委員長：神永先生）

3. 実践的研究・実践記録の必須条件の概要

実践的研究論文	実践記録
① リサーチ・クエスチョン	① 育てたい児童・生徒像
② 先行研究のレビュー	② 児童・生徒の現状
③ 研究の対象と研究方法	③ 育てたい児童・生徒を育てる、 実践方法の仮説
④ 実践内容・調査結果	④ 実践内容・調査結果（検証方法）
⑤ 分析結果と考察	⑤ 分析結果と考察
⑥ 成果と課題	⑥ 成果と課題
※ 独創性、論理性、分かりやすさ	

4. 実践的研究の研究デザイン（特別講師）

● 大村龍太郎先生

- ① 実践的研究論文の目的（リサーチ・クエスチョンの洞察）の重要性実践的研究論文は、まだ十分に明らかになっていない「問い」や「実践に潜む可能性」の探究が目的
- ② 研究方法の注意点・・・目的（どんな問いを明らかにしたいのか）が方法を規定
- ③ ①、②について、事例をもとに具体的かつ端的に紹介
- ④ まとめ・・・全体の振り返り

● 森健司先生

- ① これまでの教育・研究活動の概要
- ② 教師としての実践と研究の両立について
 - ・ 働きながらの大学院生活
 - ・ 勤務校における研究と、自分自身の研究等
- ③ 学校現場に向けた量的研究について
- ④ 学校現場の関心と量的研究
 - ・ 学校現場に対する量的研究の役割等

（実践研究委員会）

ラウンドテーブル2

国際交流委員会 タイ・スタディツアー、 ミニ国際交流シンポジウム、各委員の活動

林尚示（東京学芸大学）
林明煌（嘉義大学・台湾）
小嶋祐伺郎（芦屋大学）
牛志奎（馬鞍山師範高等専科学校・中国）
日下部龍太（清華大学・中国）
元笑予（帝京平成大学）
下島泰子（東京学芸大学）
眞壁玲子（東京学芸大学）
伊勢祐美子（世田谷区立若林小学校）
周勝男（厦門大学嘉庚学院・中国）

1 はじめに

国際交流委員会は「日本学校教育学会会則」の第17条1に基づいて設置されている委員会である。これまでに海外スタディツアーの企画運営やミニ国際交流シンポジウムを企画実施し、国際交流を促進する活動を行っている。現在の委員は、委員長・林尚示（東京学芸大学）、副委員長・林明煌（嘉義大学・台湾）、委員・小嶋祐伺郎（芦屋大学）、牛志奎（馬鞍山師範高等専科学校・中国）、日下部龍太（清華大学・中国）、元笑予（帝京平成大学）、下島泰子（東京学芸大学）、眞壁玲子（東京学芸大学）、委員兼幹事・伊勢祐美子（世田谷区立若林小学校）、周勝男（厦門大学嘉庚学院・中国）である。

なお、海外スタディツアーの企画運営については、前国際交流委員会委員長で現在は実践研究委員会委員長の中山博夫教授の貢献によって実現したプログラムである。中山博夫教授に心より感謝申し上げます。おかげさまで、「日本学校教育学会タイ・スタディツアーの記録と論考（2024年度）」（MyISBN-デザインエッグ社、2025/5/26）という報告書も出版することができた。

本ラウンドテーブルでは、一昨年、昨年度のラウンドテーブルに引き続き、2024年度の活動の成果の確認と紹介を行うことにした。

日本学校教育学会 タイ・スタディツアーの 記録と論考（2024年度）



日本学校教育学会
2024年度 国際交流委員会・実践研究委員会共催

2 方法

2025年2月の実践研究委員会との共同実施でのタイスタディツアーの写真スライド等の紹介、成果を公表した報告書等の振り返り、2024年2月の奈良教育大学でのミニ国際交流シンポジウムの紹介、その他各委員の研究経過の紹介などをもとにティスカッションを行う。

3 結果

3.1 2025年2月の実践研究委員会との共同実施でのタイ・スタディツアー（眞壁）

3.1.1 日程等

- ・日時 2025年（令和7年）2月15日（土）～21日（金）6泊7日(機内1泊含む)
- ・方面 タイ ピッサヌローク
- ・参加者 7名
- ・日程
 - 2/15 成田空港からバンコクへ(飛行機)
 - 2/16 バンコクからピッサヌロークへ(飛行機)
 - 2/17 国立ナレスワン大学にて学術交流
 - 2/18 授業参観・学術交流
 - 午前 ナレスワン大学附属小学校(日本語の授業参観)
 - 午後 ロジャナウイット・マラビアン小学校(英語の授業参観)
 - 2/19 授業参観学術交流 午前 ウドム・ダルニー学校(日本語の授業参観)
午後 世界遺産 スコータイ遺跡の歴史探訪
 - 2/20 ピッサヌロークからバンコクへ(飛行機)
バンコクから日本へ(深夜発の飛行機)

3.1.2 国立ナレスワン大学教育学部にて学術交流

- ・発表
 - 中山博夫「SDGs に対処する学習スキルの発展」
 - 林尚示「SDGs, 人権教育, 日本の特別活動の関連」
 - 齋藤道子「道徳教育と SDGs」
- ナレスワン大学の発表者 4名

3.1.3 国立ナレスワン大学附属小学校 訪問

英語と日本語の授業を参観, 教育活動について交流

3.1.4 ウドム・ダルニー校（国立の中高一貫校）訪問

学校紹介と理科の授業を参観。『ロイヤルスクール植物園』や植物博物館などを案内していただいた。

3.1.4 ロジャナウイット・マラビアン小学校 訪問

学校紹介とコース別英語の授業を参観させていただいた。

3.1.5 世界遺産スコータイ遺跡の歴史探訪

先ず, ラームカムヘーン国立博物館を見学した。博物館の研究員の説明を, 日本語を学ぶナレスワン大学の学生が通訳をしてくださった。

3.1.6 スタディツアーの成果と今後の課題

- タイの教育は, 王制と仏教という伝統が教育の根底にあり, 国の歴史や文化の中で国をまとめ, 推進する力となっていることが体感できた。
- タイの国の財政に占める教育費の比重の高さと, それに伴う IT システムの充実と教育環境の

整備、高度な知識や技術・能力を持った教員の確保には目を見張るものがある。中でも語学教育の進め方には学ぶところが多い。

○タイは、ジェンダーバランスがとれている。

○学術交流を通して、タイでの教育や研究の一端を知ると共に、日本の教育のよさや課題を改めて捉えることができた。今後の教育にかاشしていきたい。

3.2 2024年2月の奈良教育大学でのミニ国際交流シンポジウム（小嶋）

「ESD時代の国際交流を問う」をテーマに22名の参加を得て開催された。原田会長のあいさつの後、木村裕先生（花園大学）の「日本のESDの学びと探究学習」、橋崎頼子先生（奈良教育大学）の「日本のESDの学びと市民性」という2つの基調提案があった。木村先生からは大人と子どもがともに学び合い成長する中で新たな価値観に気づくこと、異なる視点を持ち寄り受容することなど、ESDの学びの特徴がこれからの社会に不可欠であることが指摘された。また橋崎先生は、日本のESDの市民性教育、特に同じユネスコの価値教育であるグローバルシチズンシップとの関連付けの弱さや、国民国家の問題などに触れ、だれとどうつながるのかという、今日的課題への対応に関わる問題が提起された。その後、小嶋会員より、自身の中学校での実践の概要説明があり、その授業を受けた卒業生9名が語る時間を持った。現在大学4年生となった彼らの語りからは、自己の中の他者性や、他者の理解ではなく受容、互酬性、アニミズム的命の感覚、等の学びから得られたいくつかのキーワードが出され、わたしたちが、今後どのように異質な他者とともに新しい社会や自己を再構築していくかについての知見を共有する機会となった。

3.3 各委員の研究経過の紹介（林（明）、牛、周、下島、元、日下部、伊勢）

林（明）

台湾の国家科学委員会の研究プログラムに専念し、台湾の田舎にある数校の小学校を対象にその特色のあるSBCDの実践的な研究を行っている。

牛

中国の教育事情について研究している。

周

専門的な内容としては、中国と日本の国際理解教育や大学の教養教育について研究を進めている。

下島

グローバルシチズンシップ教育とコンピテンシーについて研究を進めてきた。

元

中国の中高生の総合的な探究の時間中国では、児童生徒が備えるべき資質や能力について、1990年代半ばより政府が積極的に推進している「素質教育」という概念が重要である。「素質教育」は「德育」「知育」「体育」「情操教育」「労働技術教育」から構成され、「情報収集・処理能力」「知識獲得能力」「問題分析・解決能力」「言語表現能力」「団結協力能力」などの育成が目標である。その重要施策の一つとして、2001年より「総合実践活動」が小学校1年生から高校

3年生まで必修課程として設置された。「総合実践活動」は主体性・創造性・実践能力を伸ばすことが目標に掲げられ、児童・生徒自身が総合的な学習活動を行い、自然・社会・自己や文化などと深く関連させ、語文（日本の「国語」に当たるもの）・算数・社会・外国語など各教科の内容を総合的に応用し、実践活動を通じて展開する開放的な活動過程である。日本との比較で言えば、教科外の課程、すなわち「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」を統合させた領域である（小野寺・小川，2018）。OECDは「PISA2015年調査国際結果報告書」において、ウェルビーイングを「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な心理的，認知的，社会的，身体的な働きと潜在能力である」と定義し、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念としている。ウェルビーイングには、自己肯定感や自己実現などの獲得的要素と、人とのつながりや利他性などの協調的要素の2つがあるとされている（文部科学省，2023）。孔・姚（2013）は児童生徒のウェルビーイングは学校教育の質を反映する重要な要素で、素質教育の必要基礎と指摘した。また、中国教育部により推奨されている小学校総合実践活動の活動主題を通して「変革を起こすコンピテンシー」を育成できることが明らかになった（元，2024）。「中国の総合実践活動の資質能力育成の実態解明」と「中高生のウェルビーイングの関連の検討」を研究目的にし、日本と中国の教育改善・資質能力向上に向けた示唆を得て、提言したい。

日下部

中国の東北部の日本語教科書が朝鮮や台湾とどのように異なるかということについて研究を深めている。

伊勢

「地域とともに発展する学校」をコンセプトに、「町全体が学びの場」として、学校の枠にとらわれず、地域の中で多様な学びを選択できる仕組みを地域とともに考えながら教育活動を実践している。総合的な学習の時間（6学年）では、「若林から未来を創る！SDGsの花を咲かせよう～服・紙・ねぶたプロジェクト～」に取り組んでいる。また、校内研究において「多様な他者と協働しながらよりよい生活を創る児童の育成～学級活動（1）の実践を通して～」を研究主題として特別活動の研究を実践している。

4 考察

上記報告を活かして、ラウンドテーブルに参加の会員の皆様と国際交流委員会の2024年度の活動についてのディスカッションを実施する。

ラウンドテーブル3

WWL 拠点校におけるグローバル人材の育成：

教科横断的探究学習とグローバル教育の融合

服部孝彦（大妻女子大学）

水澤孝順（大妻中野中学校・高等学校）

テーマ設定の趣旨

1. はじめに：グローバル時代における教育の課題と要請

急速に進展するグローバル化、デジタル技術の革新、そして複雑化する社会課題といった現代社会が直面する変化に対応できる人材の育成が、21世紀の教育における重要な課題となっています。従来の知識偏重型の学びだけでは対応が難しい時代において、異なる文化や価値観を尊重し、対話的・協働的に課題を探究し、解決へとつなげる力が求められています。こうした「グローバル人材」の育成は、いまや特定の進学校や帰国生教育に限られた話題ではなく、全ての学習者に共通する目標となりつつあります。

このような背景のもと、文部科学省が2019年度より展開している「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」は、高校教育におけるグローバル人材育成の先導的モデルとして注目されています。WWL拠点校では、大学・企業・国際機関等と連携しながら、グローバルな課題に主体的に取り組む学びを教育課程に組み込み、「教科横断的な探究学習」と「グローバル教育」の融合を推進しています。

本ラウンドテーブルでは、WWL拠点校である大妻中野中学校・高等学校における先進的な取組を基に、探究学習とグローバル教育を相互に補完する形で設計された教育実践のあり方を検討し、そこに見られる可能性と課題について多角的に議論を行います。

2. グローバル教育と探究学習の融合が持つ意味

グローバル教育は、語学力や留学経験のみを指すものではなく、世界とつながる視点をもって課題を捉え、自らの立場から思考し、他者と協働して行動できる力を育む教育として再定義されつつあります。このような教育を成立させるには、単に知識を習得するだけではなく、現実社会との接点を持った探究的な学びが不可欠です。そのためには、教科学習の枠内にとどまらず、複数の教科を横断しながら問題を総合的に捉える力を養う「教科横断的な探究学習」の導入がカギとなります。探究とグローバル教育の融合は、学びの動機づけや、知識の活用力、社会参画意識の醸成といった点で、学習者に深い学びをもたらす重要なアプローチです。

3. WWL 拠点校に見る実践例と特色

WWL拠点校である大妻中野中学校・高等学校では、この融合を実現するための教育実践が多角的に展開されています。特徴的な事例としては以下のようなものが挙げられます：

- ・グローバル課題をテーマとした探究プロジェクトの実施：

SDGs（持続可能な開発目標）をテーマに、生徒が国際的視点と地域的課題を交差させながら探究を行う。

- ・大学・企業・国際機関との連携によるリアルな課題設定：大学研究者との連携による仮説構築や、企業のイノベーション課題を生徒が提案型で解決に挑む。
- ・教科横断的なカリキュラム編成：
複数教科を組み合わせてプロジェクトを構築する設計。
- ・表現力・論理的思考を重視したアウトプットの重視：英語でのプレゼン、ポスターセッション、論文形式のレポート作成など。
これらの取組では、「知識の習得」と「知の活用」がつながり、学びが現実世界へと開かれていくことが明確に意図されています。

4. 課題と今後の展望

一方で、このような高度な教育実践を広く展開するには、いくつかの課題も浮き彫りになっています。

- ・教員の専門性と連携の強化：
教科横断的な探究には、教員同士の協働的なカリキュラム設計と指導力の育成が不可欠。
- ・評価の枠組みの確立：
探究活動やグローバル教育において、生徒の成長や学習成果をどのように評価するか。
- ・学習時間・制度面での調整：
探究と教科授業のバランス、時間割の柔軟な構成など制度的な整備が求められる。
- ・全国展開への課題：
WWL 拠点校での先進事例を、異なる地域・学校文化に応じてどのように展開するか。

5. 本ラウンドテーブルのねらい

本ラウンドテーブルでは、WWL 拠点校である大妻中野中学校・高等学校における事例をもとに、次のような観点から討議を行います。

- ・グローバル教育と探究学習の融合による教育効果とは何か
 - ・教科と探究をつなぐ具体的な実践方法とその条件
 - ・教員の役割変容と学校組織の支援体制
 - ・今後の教育政策や学校現場における展開可能性と課題
- これらの論点を通じて、グローバル時代にふさわしい学びの在り方について、理論と実践の両面から議論を深めていきます。

タイムテーブル

趣旨説明：服部孝彦（大妻女子大学名誉教授、文科省 WWL 企画評価会議委員） [5 分]

話題提供：水澤孝順（大妻中野中学校・高等学校教頭）、服部孝彦 [35 分]

説明についての質疑応答 [10 分]

ディスカッション [15 分]

まとめ [5 分]

ラウンドテーブル4

高校探究学習の考え方・進め方（その2）

— 高校総合学習（探究）と教科（探究）の関係を中心に —

○和井田清司（武蔵大学） ○米山宏史（武蔵大学）

○渋谷拓真（都立高校） ○和井田祐司（愛知教育大学）

1. 高校探究学習の意義と課題（和井田清司）

高等学校（以下高校と略記）における新教育課程への移行が2024年度に完結した。今回の初等・中等教育段階の学習指導要領改訂の本丸は高校での授業改善にある（田中博之『高等学校探究授業の創り方』2021.p.19）。そのための焦点として、随所に「探究学習」の導入が強調されている。

多忙化の進行する高校現場での探究学習の実践には、様々なカベがある。生徒のなかに深い問いを自分ゴトとして生成させるためには、学外との連携を含め一定の仕掛けが必要となる。その時間・予算・スタッフをどう確保するか。また、地域や高校の特性、生徒の状況やニーズに対応したカリキュラムの開発、学習方法のデザイン、探究ツールの整備をどう進めるか、等である。探究学習は、知識伝達型定型的授業とは原理が異なる。「教えられて学ぶ」形でなく、生徒が自ら生成した問い（問題的場面）により試行錯誤し、納得解（解決的場面）に向かうプロセスが重要となる。教師の主導性が強すぎると生徒の自律性が失われる。既成のパッケージに頼りすぎると、表面的な「探究」にとどまりかねない。いずれも「活動あって学びなし」になりかねない。

そこで、本ラウンドテーブルでは、高校教育改革の可能性の中心として、「探究学習」の導入と展開に着目し、探究学習の本質・実践の視点と方法・実践上の諸課題等について、議論を進めていきたい。主な論点として、次のような諸点があげられる。

- ①なぜ今、「探究学習」が強く求められているのか。
- ②そもそも「探究」学習とは何か。「問題解決」学習と同じものなのか。
- ③総合学習（探究）と教科学習（探究科目）での「探究」の共通性と差異は何か。
- ④高校探究学習の高校カリキュラム全体における位置づけと意義は何か。
- ⑤高校探究学習の推進を可能とする学習環境をどのように構築するか。
- ⑥探究学習を指導する教師側のスキルは何か。どのように伸ばしていけるのか。

今回は、総合探究と教科探究の関係、教科内の総合科目と探究科目の関係を中心に検討する。

2. 総合学習（探究）と教科（探究）の関係について（和井田祐司）

「総合的な探究の時間」や、教科における総合・探究科目群の登場により、高校教育は空前の“探究ブーム”ともいふべき状況がある。しかし、「総合的な探究の時間」と教科との関係が十分に整理されているとはいえない。そこで本報告では、総合（探究）と教科（探究）の関係を考えるにあたり、次の2点に注目して話題提供を試みる。

第1の注目点は、学習指導要領解説（小学校・中学校「総合的な学習の時間」編、2017年／

高等学校「総合的な探究の時間編」2018年。以下「解説」と略)の記述である。具体的には「横断的・総合的」・「探究的学習」の語句に焦点を合わせ、定義を確認する。

あわせて、それらの記述と関連して描かれる、総合(探究)と教科の関係性に関する記述を抽出し整理する。いずれの校種の「解説」にも、「実社会や実生活の中から見いだされた探究課題に教科・科目等の枠組みを当てはめるのは困難であり、探究課題の解決においては、教科等(高等学校「解説」においては、各教科・科目等)の資質・能力が繰り返し何度となく活用・発揮されることが容易に想像できる」の語句がある。第2の注目点は、「教育課程改革試案」(中央教育課程検討委員会報告、1976)における総合学習の位置づけおよび記述内容である。

「教育課程改革試案」(以下「改革試案」と略)は、日教組教研や民間教育研究運動における、各地の教育実践研究を集約するかたちで討議され構想された。1970 - 74年にかけて設置された中央教育制度検討委員会は、学習指導要領の「教科・道徳・特活」の枠組みに対する教育課程の構造として、「教科・総合学習・自治的諸活動」の独立した3領域からなる教育課程方針を提起した。その議論を引き継ぎつつ自主編成運動の手引きとして、中央教育課程検討委員会において「改革試案」が討議・作成されていく。

その過程では総合学習の位置づけの変化がみられた。中間報告(1975)段階では、教科と自治的諸活動の「中間領域」として総合学習は位置付けられた。しかし、最終的には、大きな領域として「教科」と「教科外の諸活動」に二分したうえで、総合学習は「教科」内の一領域として位置付けられた。とはいえ、「改革試案」では「問題発生の場合」「国民的諸問題」の2つの類型からの総合学習が提案されており、小学校段階では「問題発生の場合」に該当する「学級内や学校で起こった日常的問題や諸事件」を媒介とする総合学習の比重が高い。これらのことから、総合学習の位置づけの妥当性については、ていねいに検討する必要がある。なお、中間領域案を強く主張した海老原治善の述懐によると、総合学習「教科」論と「中間領域」論は平行線をたどり、時間的制約を鑑み、海老原ら生活教育論者が譲歩した経過があった。

「改革試案」には、総合学習と教科の関係性について具体的に論じる記述がある。そこでは教科学習を「教師の指導のもとで、子ども・青年の自発性・自主性を尊重しつつ、教授＝学習過程を通して、一定の教科分野の法則的認識を系統的に保障することを主とする」ものと定義し、認識を保障するために「実生活との結合」や「実生活上の課題と教科の内容」の「内的連関をもつ編成」を学校や教師に求めている。そうした教科学習を基礎に、「教科学習の発展として総合学習が生まれる」とある。それとともに、総合学習の充実が教科学習への意欲を高めることから、「教科学習の充実によって生きた総合学習が可能となり、生きた総合学習によって、問題意識にみちた系統的な教科学習への主体的な取り組みがうまれる」と両者の関係を描いている。

「改革試案」は子どもの発達段階や各分野の系統性、学校制度に鑑みて、4つの階梯(第1:小1~3年、第2:小4~6年、第3:中学、第4:高校)を設け、大綱的試案として作成された。本報告のさいごには、第4階梯(高校)における総合学習の内容をみる。第4階梯の総合学習の例示は、①家庭科・保健・社会科・理科の協力により展開するもの、②選択科目や講座開設により展開するもの、③学活に位置づけるもの、④個人研究として展開するものがある。①②については、現実社会の具体的問題を主題化し展開する際の視点が提案されている。いずれも、問題を自分ごととして研究・追究することを通して主権者(国民主権の担い手)を育てる方向性を意図するものと評価できる。

3. 歴史総合と日本史探究の関係について（渋澤拓真）

2025年1月実施の大学入学共通テストでは、新科目「歴史総合、日本史探究」が出題された。第1問が歴史総合（以下歴総）からの出題で、東進の設問分析では、問題の一部に「日本史探究に記述されている情報では対処しにくい設問」とある。日本史探究（以下日探）で扱わない範囲が歴総に存在し、それが出題されたということだが、歴総と日探はどのような関係があるのだろうか。

2018（平成30）年告示の学習指導要領における、歴総と日探の記述内容を比較してみると、【目標】については、歴総が「近現代の歴史」、日探が「我が国の歴史」の表記が異なる程度で、大きな差異は見られない。【内容】に注目すると、歴総は各単元のはじめに「〇〇への問い」とあり、「問いを表現すること」が示されている。そして、各単元の最後には「現代的な諸課題」を考察することになっている。一方、日探については、各単元のはじめに「時代を通観する問いを表現すること」とあり、問いの種類が「時代を通観する」ものであることが求められているようである。さらに各単元の最後は、（各時代の）主題を設定して考察・解釈・画期などを根拠を示して表現する」ことになっている。

これらの内容から、主題を設定して考察・表現するスタイルは共通しているが、歴総と比べると日探では、「時代を通観する問い」を設定した上で、仮説を表現し、諸事象の解釈などを根拠をもって表現することが求められているように考えられる。

したがって、生徒たちが設定した問いから探究・考察していく対象が両科目では異なるように感じられる。歴総では「現代的な諸課題」への解決・分析を目指すために各単元の内容が設定され、現在を中心に据えた歴史学習（歴史が現在にもたらしたもの・現在につながっているもの・概念の獲得）が目指されている。そして日探については、歴総の視点に加えて、当時の歴史像（時代観・歴史解釈・現代との違い）を生徒たちに獲得させることを目指した歴史学習が目指されているのではないだろうか。

また、学習指導要領の【内容の取り扱い】について両科目を比較すると、日探では、歴総と共通する内容に加えて、「歴史総合での学習との連続性に留意しながら諸事象をとりあげること」「近現代史の指導に当たっては、「歴史総合」の学習の成果を踏まえ、より発展的に学習できるよう留意すること」とあり、歴総の内容を踏まえながら日探の学習をすることが求められている。近現代史については、歴総と日探で同時期を扱うことになる。両科目の関連を充実させるためには、どのような授業展開が求められるのだろうか。一例をあげたい。「日本の産業革命」の単元において、歴総では、現代でも身近なファッションに注目して、これらの産業がどのように発展していったのか史料をもとに考察する。その一方で産業の発展の裏側では過酷な労働環境が存在していたことを理解させる。そして「現代的な諸課題」との関連からファストファッションの問題を取り上げ、産業発展と労働・生活の充実を両立させる手立てを考え、議論させるのである。

日探では、当時の実態により深く迫っていくことを目指し、導入として渋沢栄一を取り上げる。年表から「時代を通観する問い」を作成する。そのうえで歴総でもあつかった産業の発展および過酷な労働環境・寄地主制の状況を史料から考察させる。そして、このような状況に人びとがどのように対応しようとしたのかを考えさせ、日本の産業革命期の時代像を獲得させるのである。

このように、前近代では歴総とは異なるアプローチで、近現代では歴総の視点を加えた新たなアプローチで授業を行うことが、歴総と日探を関連させ、充実させることになるのではないか。

4. 歴史総合から世界史探究への接続をめぐって（米山宏史）

今年 2025 年は、必履修科目「歴史総合」の導入（2022 年度）から 4 年目を、選択科目「日本史探究」「世界史探究」の実施（2023 年度）から 3 年目を迎えている。「歴史総合」と「世界史探究」の特徴、共通点と相違点にふれたうえで、「歴史総合」の学びの成果をどのように「世界史探究」に接続させるかについて、見通しを述べたい。

必履修科目の「歴史総合」は、①近現代の歴史を学習内容とし、②世界とその中の日本を相互的な視野から把握する、③現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する、④諸資料から情報を調べまとめる技能を習得する、⑤生徒自身が問いを表現し、資料を活用して探究を行うことなどに新しい特徴がある。4 つの大項目（A 歴史の扉、B 近代化と私たち、C 国際秩序の変化や大衆化と私たち、D グローバル化と私たち）から構成され、D の中項目(4)にまとめとして「現代的な諸課題の形成と展望」を設けている。

標準単位数が 3 単位の選択科目「世界史探究」は、人類の誕生から現代に至る世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象を学習内容とする。諸地域の構造・関係の変化を軸に通史として体系化し、5 つの大項目（A 世界史へのまなざし、B 諸地域の歴史的特質の形成、C 諸地域の交流・再編、D 諸地域の結合・変容、E 地球世界の課題）から構成し、E の中項目(4)にまとめの「地球世界の課題の探究」を設けている。

目標をみると、歴史 3 科目は、(1)の学習内容が異なるだけで、柱書、(2)の養う力、(3)の人間性の涵養はすべて共通である。3 科目ともに、現代の課題の探究を重視し、生徒が問いを表現し、資料を活用した探究を求めている。他方で、相違点として「歴史総合」は学習内容を近現代に特化させ、3 つの概念で大項目を構成し、世界史と日本史を相互的な視野で把握しながら現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解するのに対して、「世界史探究」は、人類の誕生から現代に至る世界の歴史を対象として、「歴史総合」の学習成果を活用し、主題を設け資料を活用して課題を考察しながら世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解する。大項目 E の中項目(1)～(3)は通史的構成ではなく、国際政治、国際経済、科学技術の分野別の地球世界の課題を考察し、(4)で 3 つのテーマを参照し地球世界の課題を設けて探究する。なお、「歴史総合」の履修後に探究科目の履修が可能になる。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』を参考に中学校社会科「歴史的分野」を含めて、「歴史総合」から「世界史探究」への学びの接続をイメージすると、以下ようになる。①中学校「歴史的分野」で、日本の歴史の大きな流れを理解し、資料から情報を調べまとめる技能を習得する、②「歴史総合」では、現代的な諸課題の形成に関する近現代史に関する理解や資料読解、問いを表現する技能を身に付ける、③「世界史探究」では、①と②の学習成果をふまえ、大項目 B ～ D の中項目(1)の導入単元で各大項目の内容を大観・把握するための諸観点（概念）を考察し、生徒が問い（課題）を表現し、その後の学習内容への課題意識や見通しを得る、④大項目 B ～ D の中項目(2)～(3)および(4)(D のみ)で、自身が表現した問いをふまえ、主題を設けて資料を活用して課題を考察する、⑤大項目 E の中項目(1)～(3)で 3 つの分野の地球世界の課題を理解・追究する、そして⑥大項目 E の中項目(4)で「世界史探究」のまとめとして、3 つのテーマを参考にして関連する主題を生徒が設定し、よりよい社会を展望しながら探究を行う、という一連の学習過程となる。これを具体的な実践モデルで構想すると、以下ようになる。

I. 中学校「歴史的分野」の第二次世界大戦の単元で、南京事件、アウシュビッツ強制収容所、『アンネの日記』を学習し、戦争犯罪に関心を抱く。II. 「歴史総合」の大項目 C の中項目(3)で

ニュルンベルク裁判、東京裁判を通じて「平和に対する罪」「人道に対する罪」などを理解する。III. 「世界史探究」の大項目 D の中項目(1)で観点「国際規範の変容」で国際連盟規約、パリ不戦条約、国連憲章、日本国憲法を考察し、戦争違法化の思想の系譜を把握する。IV.大項目 D の中項目(2) または(3)でハーグ陸戦条約（内容、意義、影響）を諸資料から考察する。V. 大項目 E の中項目 (1)でベトナム戦争の戦争犯罪、民衆法廷、反戦運動などを探究する。VI. 大項目 E の中項目(4) で「紛争解決や共生」のテーマに関連して、国際刑事裁判所(ICC)を主題として設け、設立目的、活動事例、現在の活動内容と課題、今後の可能性などを調査・追究する。こうして、この生徒は、中学校「歴史的分野」、「歴史総合」と「世界史探究」を通じて「戦争犯罪」という現代世界の課題に向き合い、その理解と認識を深め、探究の技能を身に付けることになる。

付記	当日は前半で話題提供を、後半で参加者とのフリートークを予定している。詳細な発表資料は当日会場にて配布する。なお、本報告は、科研基盤 C・課題番号 25K06180「高校探究学習の構造と実践に関する総合的調査研究」（研究代表者・和井田清司）の研究成果の一部である。
----	---

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

自立的で相互依存的な学習者を育てる **コレクティブ・エフィカシー**

J. ハッティほか著 原田信之訳者代表 四六・272頁・定価3080円 子どもたちの学びを力強く育むコレクティブ・エフィカシーとは？ ビジブルラーニング研究の確かな知見に基づき解説する。「私スキル」と「私たちスキル」の相互作用的な高まりを強調。

スクールリーダーのための **教育効果を高めるマインドフレーム**

—可視化された学校づくりの10の秘訣— J. ハッティほか編著 原田信之訳者代表 四六・248頁・定価2970円 学校改善を成功へと導くリーダーシップとは？ 教育指導職が「指導および自身の役割をどう考えるのか」は、生徒と教師「両方」の学びに大きな影響を与える。可視化された学習研究の成果を学校改善の実践へとつなぐ。

教師のための教育効果を高めるマインドフレーム

—可視化された授業づくりの10の秘訣— J. ハッティ, K. チェラー著 原田信之訳者代表 四六・324頁・定価2970円 学習を成功へと導く授業とは？ 熟練教師の実践知とメタ分析によるエビデンスを融合。教師のコンピテンシーと両輪となって、教職専門性を支える10の「心的枠組み」を示す。

教育効果を可視化する学習科学

J. ハッティ, G. イエーツ著 原田信之訳者代表 A5上製・552頁・定価5940円 教師と生徒に必要なのは、教授方法や学習環境だけでなく、「学ぶことの本質」への理解である。メタ分析データと学習科学の知見を照合し、31のテーマで、学びの成立と促進の条件を浮き彫りにする。学びを最大化する授業の実現と教育実践の見つめ直しに向けて。

道徳科「内容項目」を問い直す！ **道徳授業づくりハンドブック**

高宮正貴, 椋木香子, 鈴木 宏編著 A5・432頁・定価4180円 先ずもって教師による道徳科「内容項目」の深い理解こそが、子どもの多面的・多角的な思考を育む道徳授業にとって重要なのではないか。小中学校の22の内容項目に含まれる道徳的諸価値について、倫理的・思想的な解釈を詳説。44の指導案を通して授業づくりへの活かし方を明解に示す。

非認知能力の発達

—生涯にわたる変化と影響— 小塩真司編著 A5・336頁・定価2970円 非認知能力はどのように発達するのか。教育的・養育的関わりを含めたさまざまな人間関係やライフイベントの影響のもと、心理特性相互の関連性にも着目しつつ、人生全体にわたって変化するものとして捉える。発達概念とあわせもつ多様な意味を考える奥深さへといざなう。

心理学・教育学研究のための効果量入門

—Rを用いた実践的理解— 中村大輝著 A5・232頁・定価3520円 ジャーナルでの研究報告に求められる効果量とその信頼区間について、理論から実践まで体系的に学べるテキスト。効果量の定義、計算方法、解釈や統合の方法、効果量に基づくサンプルサイズ設計の方法を、Rコードと論文での実際の記載例を交えて紹介。

授業実践コンピテンシーを育む教育方法論

高木 啓, 熊井将太編著 A5・176頁・定価2530円 教師になるためになぜこの内容（コンテンツ）を学ぶ必要があるのか、専門知識は実践にどのようにつながるのか。原理や方法・技術の背後にある意味を探究することを通して、教師に求められる資質・能力（コンピテンシー）の育成を図る。授業実践コンピテンシーと教育学コンテンツをつなぐ新たなテキスト。

学習科学ハンドブック 第二版 第1・2・3巻

R. K. ソーヤー編/森 敏規, 秋田善代美他監訳 定価3850円～定価4180円

研修設計マニュアル

鈴木克明著 定価2970円

ようこそ、一人ひとりをかす教室へ

C. A. トムリンソン著/山崎敬人他訳 定価2640円

メタ認知

三宮真智子編著 定価3300円

教材設計マニュアル

鈴木克明著 定価2420円

一人ひとりをかす評価

C. A. トムリンソン他著/山元隆春他訳 定価2420円

21世紀型スキル

P. グリフィン他編/三宅なほみ監訳/益川弘他編訳 定価2970円

学習設計マニュアル

鈴木克明, 美馬のゆり編著 定価2420円

初めての教育論文

野田敏孝著 定価1650円

中学・高校向け総合学習支援ツール

ジャパナレッジSchool

生徒の電子端末が自分専用の本棚に！
全68種類、1,000冊以上の書籍を利用可能

- ✓ 一人一台端末に即した授業を実現
- ✓ 情報リテラシー教育を後押し
- ✓ 生徒の「発見」をサポート
- ✓ シングルサインオンで簡単アクセス
- ✓ 先生の授業準備や問題作成にも活用できる

トライアル受付中! 中学・高校での無償トライアルを受付中です。
詳しくは公式HPまたは紀伊國屋書店まで。



開発・運営 **NetAdvance**

株式会社 ネットアドバンス (小学館グループ)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル3F
E-mail: school@japanknowledge.com
TEL: 03-5213-0872 FAX: 03-5213-0876

販売代理店

紀伊國屋書店

株式会社 紀伊國屋書店 (ジャパナレッジSchool担当)
〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10
E-mail: school@kinokuniya.co.jp
TEL: 03-5719-2501 FAX: 03-6420-1359

公式HPはこちら



質の高い探究と 先生の負担軽減へ



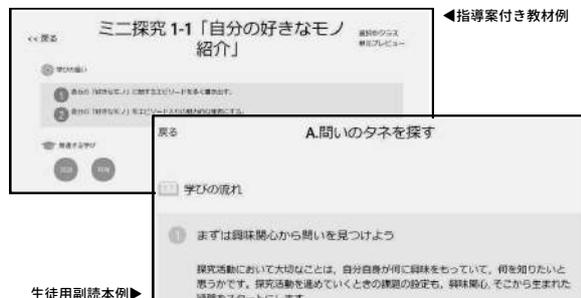
大修館 探究オンライン
ACTUAL
アクチュアル

開発・運営 大修館書店

探究学習に特化した中学校・高校向けオンライン学習サービス“アクチュアル”。

授業準備の省力化を可能にする指導案付きの教材や、先生方の負担を減らし授業を円滑に進める生徒用副読本を数多く収録しています。

学習管理もアクチュアル内で完結するため、授業準備から成績処理まで、探究学習に関わる様々な業務の効率化・省力化を支援します。



生徒用副読本例▶

デモアカウント▶
お申込受付中



最新情報はこちらで▶
チェック



販売総代理店 **紀伊國屋書店** 学校教育営業部

TEL: 03-5719-2501 E-mail: school@kinokuniya.co.jp

子どもがつながる社会科の展開 ～地域・世界と共に～



子どもが地域や世界と主体的につながりながら学ぶ社会科を提案する実践ガイドブック。グローバル時代に求められる資質・能力の育成を目指し、正解のない課題に対話と協働で向き合う学びを紹介します。多様性をつなぐを大切にする教育のヒントが詰まった一冊です。

編著者：土屋武志、真島聖子、白井克尚
価格：1,980円（本体1,800円＋税10%）
体 様：A5判、250ページ
I S B N：978-4-536-60137-5

学級経営こそ、教師のやりがい ～教師力は学級経営力～



子どもたちの本源的な求めに応える学級経営とは何か——。学校管理職の立場から見た学級経営の実態や、担任の立場から見た管理職の姿などを、実例を通してわかりやすく解説します。教育の本質にかかわる「子どもたちと共に歩む学級づくり」を実現するための道しるべとなる一冊です。

編著者：鈴木亮太
価格：2,200円（本体2,000円＋税10%）
体 様：A5判、176ページ
I S B N：978-4-536-60141-2

お問い合わせは、弊社ホームページ「お問い合わせフォーム」よりお願いいたします。

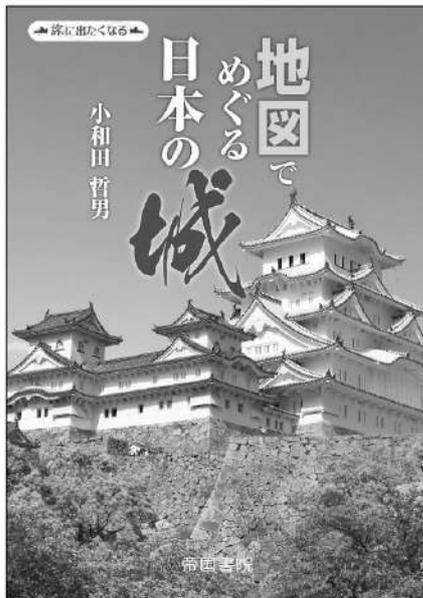


心が動く、その先へ。
日本文教出版

日本文教出版株式会社 <https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社	〒558-0041	大阪市住吉区南住吉 4-7-5	TEL: 06-6692-1261
東京本社	〒165-0026	東京都中野区新井 1-2-16	TEL: 03-3389-4611
九州支社	〒810-0022	福岡市中央区薬院 3-11-14	TEL: 092-531-7696
東海支社	〒461-0004	名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B	TEL: 052-979-7260
北海道出張所	〒001-0909	札幌市北区新琴似 9-12-1-1	TEL: 011-764-1201

祝 日本学校教育学会 第39回研究大会



地図でめぐる日本の城

小和田哲男 A4判/204頁/オールカラー/定価2,640円(税込)

大河ドラマでもおなじみの歴史学者と、
学校地図帳の出版社による日本全国の城を
地理的な視点もまじえて紹介する地図帳

著者プロフィール：

1944(昭和19)年、静岡市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。静岡大学名誉教授。専門は日本中世史、特に戦国時代史の第一人者。歴史番組でのわかりやすい解説に定評があり、NHK大河ドラマでも数多くの時代考証を担当。戦国武将に関する著書多数。



帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-29
<https://www.teikokushoin.co.jp/>

初等社会科教育の 理論と実践

—学びのレリバンスを求めて—

編著 原田 智仁 体裁 B5判・192頁 カラー口絵付
ISBN 978-4-909378-52-1 定価 2,090円 (税込)

社会科教育の ルネサンス

—実践知を求めて— [第3版]

編著 原田 智仁 体裁 B5判・184頁
ISBN 978-4-909378-56-9 定価 2,497円 (税込)

哲学的な考えをいかす 新・教育原理

—教育と保育を考える—

編著 伊藤 潔志 体裁 B5判・176頁 カラー口絵付
ISBN 978-4-909378-71-2 定価 2,310円 (税込)

教職を学ぶ人の 新・教育心理学

編著 渡部 雅之 体裁 A5判・168頁 カラー口絵付
ISBN 978-4-909378-47-7 定価 2,000円 (税込)

授業のための 新・「教職」道徳教育論

編著 金光 靖樹 体裁 A5判・192頁 カラー口絵付
ISBN 978-4-909378-46-0 定価 2,000円 (税込)

自ら学ぶ道徳教育

編著 押谷 由夫 体裁 B5判・192頁
ISBN 978-4-909378-40-8 定価 2,619円 (税込)

マンガと事例でポイントをつかむ 幼児教育・保育方法論

編著 関 仁志 体裁 B5判・176頁 カラー口絵付
ISBN 978-4-909378-72-9 定価 2,310円 (税込)

図書出版・販売
K 教育情報出版

〒557-0055 大阪市西成区千本南1-18-24
TEL 06-6658-8741 (代)
06-6651-5012 (編集部) HP <http://www.kyoiku-joho.jp>
FAX 06-6652-2928



ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント

原田 信之著 2750円

教員養成学を考える

上越教育大学「教員養成学」書籍編集委員会編 4180円

地方小規模私立大学の挑戦

林 勇人編著 1650円

国際学力調査に基づく読書指導法の開発研究

足立 幸子著 10450円

子どもの心理と教育内容の論理を結びつけた社会科授業

社会科の理念と授業を考える会編 3300円

レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践

二井正浩編著 2750円

小学校における学習規律に関する学級経営研究

笹屋 孝允著 7150円

子どもの社会的思考力・判断力の発達と授業開発

加藤寿朗・梅津正美・前田健一・新見直子著 3300円

続 奇跡の学校—不可能を可能にしたコミュニティ・スクール—

小西哲也・中村正則編著 1980円

歴史教師のビリーフに関する国際比較研究

宇都宮明子・原田信之編著 2750円

新しい歴史教育論の構築に向けた日独歴史意識研究

宇都宮明子著 10450円

社会科教育からのケイパビリティ・アプローチ

志村 喬編著 3300円

小学校国語科における討論指導に関する研究

北川 雅浩著 4950円

東アジアにおける法規範教育の構築

梅野正信・福田喜彦編著 4180円

動態的法教育学習理論開発研究

中平 一義著 9350円

レリバンスの構築を目指す令和型学校教育

關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著 4180円

世界史教育内容編成論研究

祐岡 武志著 7150円

日本キャリア教育事始め

『日本キャリア教育事始め』編集委員会編 3300円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

教育裁判事例集

—裁判が投げかける
学校経営・教育行政へのメッセージ

●佐々木幸寿 著 定価2,750円
学校経営が直面してきたさまざまな問題までのように司法に判断されてきたのか、学校運営教育行政にまつわる裁判事例を読み解く。



貧困化する授業からの反転

—デジタル化と「子ども主体」の偽装を真正の教育へ

●子安潤 著 定価2,640円
デジタル化の落とし穴、ログ収集の危険を検討。個別最適な学びと資質能力論の幻想性を問う。画一化が望まれる世界に警鐘を鳴らす!



ユネスコ・教育を再考する

—グローバル時代の参照軸 定価2,200円

●日本教師教育学会第10期国際研究交流部・
百合田真樹人・矢野博之 編訳著/他訳著
"Rethinking Education" 待望の翻訳。ユネスコの教育政策と実践の
基礎理論を読み解く。重要語句や概念群の解説を加え紹介。



校長のリーダーシップ

—日本の実態と課題

●浜田博文・諏訪英広 編著 定価3,300円

校長のリーダーシップ発揮を支え、促すための制度的・組織的
条件の在り方を追究し、そのための条件整備を提示。



「だれが教師をめざすのか」 の教育社会学

—「観察による徒弟制」と教員養成

●太田拓紀 著 定価2,970円
現代の若者が教職を選択し養成段階にいたる過程と課題を検証。



高校と地域のパートナーシップ

—協働が未来を拓く

●荻原彰・小玉敏也 編著 定価2,640円
多様化する学校の地域協働を5つのカテゴリに整理し、事例や課題を提示する。



早稲田教育ブックレット ●早稲田大学教育総合研究所 監修
各巻：定価1,100円

32「先生は忙しい」というけれど…
それって先生の仕事?—フランスの教員の働き方を参考に考える

33 AIは教育をどう変える?
—可能性と課題を学際的に追究する



教員志望学生の不安や悩みを どう理解するか

—現代アメリカにおける支援実践から

●太田知実 著 定価3,740円
多文化教育を基盤とするアメリカの動向を手がかりに、問いに向き合う。



現代アメリカにみる「教師の効果」測定

—学力テスト活用による伸長度評価の生成と功罪

●西野倫世 著 定価4,950円
学力テスト結果を通じ、教師の責任を問うことに関する事例研究。



一人一台で授業をパワーアップ!

—教育の質を飛躍的に向上させるICT活用実践ガイド

●ダイアナ・ニービー・ジェン・ロバーツ 著/ 定価2,750円
齊藤勝・白鳥信義・吉田新一郎 訳
アメリカの教師らが日々試行錯誤しうみだした優れた授業実践を多数紹介。



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyog@gakubunsha.com

戦後日本の郷土教育実践に関する歴史的研究

生活綴方とフィールド・ワークの結びつき

白井克尚 著 (愛知東邦大学教育学部子ども発達学科准教授)

郷土教育とは、地域の自然や生活文化に教材を求め、郷土への愛情と理解を育成するもの。本書は1950年代における郷土教育の実践に着目し、考古学、地理学、地質学等をベースにした教材開発や児童生徒の学習成果を紹介する。

【目次】

- 序章 本研究の目的と方法
- 第1章 「新しい郷土教育」実践の創造
—1950年代前半における「理論」と「実践」の結びつき
- 第2章 郷土史中心の「新しい郷土教育」実践の創造
- 第3章 フィールド・ワークを活用した「新しい郷土教育」実践の創造
- 第4章 考古学研究と結びついた「新しい郷土教育」実践の創造
- 第5章 地域運動と結びついた「新しい郷土教育」実践の創造
- 第6章 地理学習としての「新しい郷土教育」実践の創造
- 第7章 本研究の成果
—「新しい郷土教育」実践の創造過程における特質

戦後日本の 郷土教育実践に関する 歴史的研究

生活綴方とフィールド・ワークの結びつき



A5判 上製 276頁
定価：3000円+税
ISBN 978-4-908407-30-7
2020年3月31日発行

愛知東邦大学地域創造研究所編「地域創造研究叢書」最新刊

No.37 教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 (A5判 144頁 定価：2000円+税)

No.38 大学学部での経営教育—「主体性」や起業をどう教えるのか? (A5判 136頁 定価：2000円+税)

ゆいがくしょぼう
有限会社 唯学書房

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル 102A

電話 03-6801-6772 / FAX 03-6801-6210

E-mail yuigaku@atlas.plala.or.jp <https://www.yuigakushobo.com/>



AICHI TOHO UNIVERSITY

 **愛知東邦大学**
AICHI TOHO UNIVERSITY

オンリーワンを、一人に、ひとつ。

経営学部

人間健康学部

教育学部

<日本学校教育学会第39回研究大会（学会創立40周年記念大会）プログラム>

発行日：2025年6月28日

発行・編集：日本学校教育学会第39回研究大会（学会創立40周年記念大会）準備委員会

<準備委員会>

委員長	白井 克尚	（愛知東邦大学）	shirai.katsuhisa@aichi-toho.ac.jp
副委員長	小池 嘉志	（愛知東邦大学）	koike.yoshiyuki@aichi-toho.ac.jp
	土屋 武志	（愛知東邦大学）	
	丹下 悠史	（愛知東邦大学）	
	原田 信之	（中部大学）	
	水野 正朗	（東海学園大学）	
	齋藤 陽子	（岐阜女子大学）	
	和井田祐司	（愛知教育大学）	
	音成佐矢子	（鈴鹿大学）	
	森田幸一郎	（みよし市立三好丘小学校）	
	白根 奈巳	（名古屋市立大宝小学校）	

【大会準備委員会事務局】

愛知東邦大学（〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘3-11）

日本学校教育学会第39回研究大会準備委員会事務局（委員長：白井克尚）

E-mailアドレス：jase39th2025@gmail.com

※日本学校教育学会への入会や年会費納入の確認等、第39回研究大会以外のことについては、学会事務局までお問い合わせください。

【日本学校教育学会事務局】

日本大学文理学部教育学科（〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40）

TEL：03-5317-9370（事務局長 田中謙研究室直通）

Email：JASE.officialmail@gmail.com